

JFFID 日本代表 2025 フランス遠征【国際親善強化マッチ】

報告者：日本代表監督 西 真一

1 日時・場所

期 間：2025 年 6 月 24 日(火)～7 月 3 日(木)

場 所：フランス／ポルドー

2 遠征の目的

・2026 年 Virtus サッカー世界選手権に向けた強化



3 スタッフ・選手

スタッフ		選 手	
ナショナルダイレクター	小澤 通晴	FP	武田 稜久 (大 阪)
監督	西 真一	FP	大野 航 (鹿児島)
コーチ	泉谷 光紀	FP	下鶴 掛夢 (鹿児島)
コーチ／アナリスト	竹中 康雄	FP	佐藤 快 (東 京)
GK コーチ	岡田 裕樹	FP	大久保 史弥 (栃 木)
アスレチックトレーナー	澤野 啓祐	FP	犬塚 陸 (愛 知)
主務	古蘭 功詞郎	FP	小川 駿 (東 京)
選 手		FP	梅村 俊佑 (神奈川)
GK	原田 康汰 (鹿児島)	FP	奥田 浩輔 (福 岡)
FP	草田 佑介 (広 島)	FP	小才 天太 (鹿児島)
FP	吉川 圭祐 (東 京)	FP	松野 隆弥 (福 岡)
FP	横井 知明 (東 京)	FP	幾島 直人 (兵 庫)
FP	福原 碧人 (鹿児島)		

スタッフ：7 名 選 手：17 名【※通訳兼コーディネーター 加藤 広明 (T-LIFE パートナース)】

4 スケジュール

期日	午前	午後	夜
6月24日(火)		集合	日本出発
6月25日(水)	到着	トレーニング	コンディショニング管理
6月26日(木)	トレーニング	トレーニング	コンディショニング管理
6月27日(金)	トレーニング	トレーニング	コンディショニング管理
6月28日(土)	トレーニング	親善強化マッチ① vs フランス	コンディショニング管理
6月29日(日)	調整マッチ Vs 地元チーム	コンディショニング管理	コンディショニング管理
6月30日(月)	トレーニング	オフザピッチプログラム	コンディショニング管理
7月1日(火)	トレーニング	ミーティング	親善強化マッチ② vs フランス
7月2日(水)	フランス出発	—移動—	—移動—
7月3日(木)	日本到着／解散		

5 試合結果

◆親善強化マッチ① 日本 2 $\begin{pmatrix} 1-0 \\ 1-0 \end{pmatrix}$ 0 フランス

◆得点者：松野、下鶴

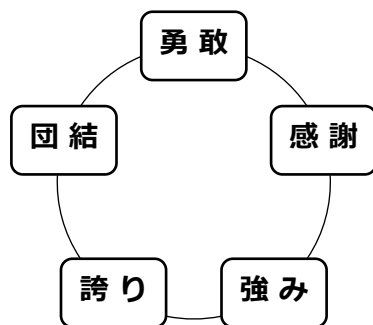
※詳細は、別紙マッチレポート①を参照。

◆親善強化マッチ② 日本 2 $\begin{pmatrix} 0-0 \\ 2-1 \end{pmatrix}$ 1 フランス

◆得点者：草田、松野

※詳細は、別紙マッチレポート②を参照。

6 JFFID 日本代表 IDENTITY



日本代表、それは夢の舞台で躍動する集団
日本人である誇りと個々の強みを持ち
日本の勝利のために覚悟し、それを団結する
すべての関わりに感謝し、勇敢に世界に挑む。

7 総括

2026 年 Virtus サッカー世界選手権に向けて、フランス遠征を行い、フランス代表に 2 戦 2 勝しました。

「世界を日常に」をコンセプトに 2022 年から海外遠征を行い、世界トップ国との対戦を続けてきました。選手は、良い意味で国際試合に慣れ、世界トップ基準のプレースピード、プレーの質、勝負メンタリティを体感し、その基準が選手の日常のスタンダードになっています。

また、航空機による長時間移動、時差、暑熱、寒暖差、食事など、日本で生活している時と違う生活環境も踏まえてチームで選手のコンディション管理に充分留意し対策していることも、パフォーマンス向上に繋がり試合結果に反映されているものと捉えています。

今回は、フランス・ボルドーでの活動で、日射の場所では気温 40℃であるなど、日中にサッカーをする気象状況としては過酷でしたが、現地到着後 2 日間は午前・午後で TR を行い、個人戦術、グループ戦術に加えてチームとしての戦い方を確認して試合に臨みました。

試合の詳細は、別途マッチレポートをご覧くださいと思いますが、決定力、デュエルの強さ、ヘディングの競り合い、スピード、トランジション（切り替え）、そして何より勝ちたいと強く意識することなど、勝つための Detail（ディテール）が相手を上回っていたと思います。2030 年に世界一を目指すには、更なるプレーの質向上が不可欠です。国内でのトレセン、リーグ戦などの場で「判断を伴ったテクニックの質向上」をより一層意識した取り組みが日本全体に広がることを期待します。

今遠征のトピックは、フランスサッカー協会に関連するトレーニングセンターで摂った食事です。食事の量、栄養バランスはもとより、味付けは日本を意識した食事の提供がされるなど、フランスのホスピタリティに触れることができました。

最後に、選手を送り出していただいたチーム、学校、所属先及び選手を日頃からサポートしてくださっている皆様方におかれましては、日頃より代表チームの活動にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。2026 年の Virtus サッカー世界選手権で過去最高の成績をあげられるよう、さらなる強化を進めてまいります。

引き続きよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

